

宮崎県都城市中心市街地中核施設「Mallmall(まるまる)」視察報告書

1. 視察概要

- 施設名: Mallmall(まるまる)
 - 所在地: 宮崎県都城市中町
 - 開設: 2018 年(平成 30 年)4 月
 - コンセプト: 「まちの広場」をテーマに、誰もが気軽に立ち寄り、滞在し、交流できる場を提供することを目指しています。図書館、子育て世代交流施設、まちなか広場、商業施設などが一体となった複合施設です。
 - 整備目的: 都城市の中心市街地の活性化、市民の交流促進、文化・教育機能の充実、賑わいの創出。
-

2. 視察日時

- ・ 令和 7 年 7 月 16日(木) 14時00分～16時30分

3. 主要機能

Mallmall は、以下の主要な機能が複合的に配置されており、それぞれの機能が連携することで相乗効果を生み出しています。

(1) 都城市立図書館

開放的で居心地の良い空間デザインが特徴です。多様な蔵書に加え、学習スペース、グループ学習室、イベントスペースなどが充実しており、読書だけでなく、学習、交流、情報収集の拠点となっています。



都城市立図書館の様子です。

- **蔵書:** 一般書、児童書、郷土資料など幅広いジャンルを網羅。
- **閲覧スペース:** ゆったりとしたソファ席や個別の学習机など、多様なニーズに対応。
- **AV コーナー:** DVD・CD の視聴が可能。
- **イベントスペース:** 読み聞かせ会、講演会、ワークショップなど様々なイベントを開催。

10代のための居場所であったり、自由に活動できるスペースなど

- **カフェ併設:** 読書をしながら軽食や飲み物を楽しめる空間を提供。

(2) 都城市子育て世代交流施設「のびとぴあ」

子どもたちが安全に遊べるスペースと、子育て世代の親御さんたちが交流できる場を提供しています。専門のスタッフが常駐し、子育て相談なども行っています。



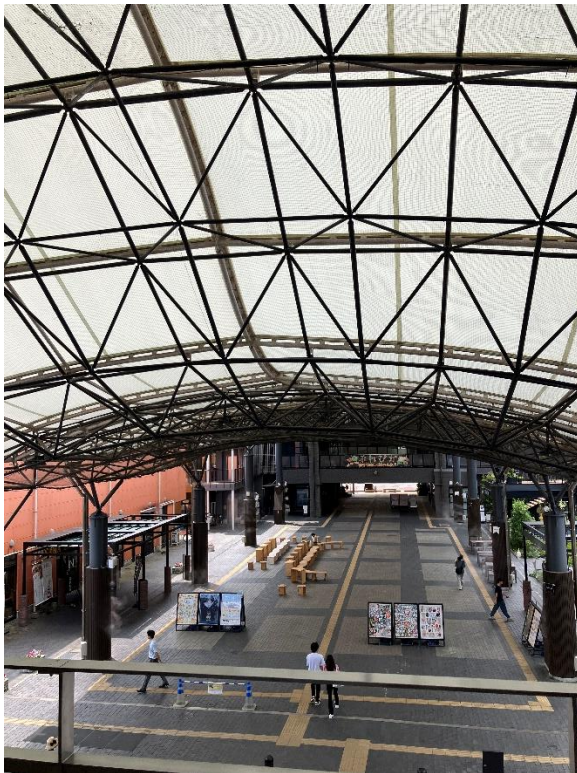
都城市子育て世代交流施設「のびとぴあ」の様子です。

- **乳幼児向けプレイルーム:** ハイハイやよちよち歩きの子どもたちが安心して遊べる空間。
- **児童向け遊具スペース:** 大型遊具や知育玩具などが設置され、体を動かして遊べる。
- **授乳室・おむつ替えスペース:** 清潔で使いやすい設備を完備。

- 交流スペース: 親同士が情報交換や交流を深める場。
- 子育て相談: 専門スタッフによる個別相談や子育て講座の開催。

(3) まちなか広場「Future NAGOYA(フューチャーなごや)」

施設の中央に位置する屋外広場です。屋根付きのスペースもあり、天候に左右されずにイベント開催が可能です。市民の憩いの場、イベントスペースとして多目的に利用されています。



まちなか広場「Future NAGOYA」の様子です。

- イベント開催: マルシェ、コンサート、各種発表会など多様なイベントに対応。
- 休憩スペース: ベンチなどが設置され、市民の休憩や待ち合わせ場所として利用。
- 子どもの遊び場: 広々とした空間で、子どもたちが自由に遊べる。

(4) 商業施設(テナント)

飲食店や物販店など、地域に根差した魅力的なテナントが入居しています。施設の賑わいを創出し、来館者の利便性を高めています。

Mallmall 内の商業施設の様子です。

- **飲食店:** カフェ、レストランなど多様なジャンル。
- **物販店:** 地域特産品、雑貨、書籍など。

(5) その他施設

- **都城市立美術館:** 美術品の展示や文化活動の拠点。
 - **都城歴史資料館:** 都城の歴史や文化に関する資料を展示。
 - **駐車場:** 多数の駐車スペースを確保し、車での来館者にも対応。
-

3. 所見

Mallmall を視察し、以下の点が特に印象深く、加須市の中心市街地活性化の参考に資すると感じました。

- **複合機能による相乗効果:** 図書館、子育て施設、広場、商業施設が一体的に整備されていることで、それぞれの機能が連携し、幅広い世代の市民が訪れる「拠点」として機能していました。特に、子育て世代が図書館を利用する機会が増えたり、図書館利用者が商業施設に立ち寄るなど、回遊性が高まっていることがうかがえました。
 - **居心地の良い空間デザイン:** 各施設が開放的で明るく、市民が長時間滞在したくなるような工夫が随所に見られました。特に図書館は、従来のイメージを覆すような洗練されたデザインで、多くの利用者が思い思いの時間を過ごしていました。
 - **多様なニーズへの対応:** 小さな子どもから高齢者まで、様々な年齢層や目的を持つ人々が利用できる施設設計となっていました。特に「のびとぴあ」のような子育て支援施設は、現代社会において非常に重要な機能であり、中心市街地への誘客にも繋がると考えられます。
 - **イベントによる賑わい創出:** 「まちなか広場」では、常に何らかのイベントが開催されており、施設の賑わいを維持する上で重要な役割を担っていました。地域住民が主体的に参加できるイベントを企画・実施することで、施設への愛着や利用頻度を高めていると感じました。
 - **民間活力の導入:** 商業テナントの誘致や、カフェなどの運営に民間事業者を活用することで、施設の魅力向上と運営の効率化が図られているようでした。
-

4. 加須市への示唆

Mallmall の成功事例は、加須市の中心市街地活性化を考える上で多くの示唆を与えてくれます。

- **複合施設の検討:** 加須市の中心市街地において、図書館や市民交流施設など、複数の公共機能と商業機能を組み合わせた複合施設の整備を検討することは、市民の利便性向上と賑わい創出に大きく寄与する可能性があります。
- **居心地の良い空間づくり:** 市民が気軽に立ち寄れる、開放的で魅力的な空間デザインを意識した施設整備が重要です。特に、滞在時間を延ばすための休憩スペースやカフェの併設なども有効と考えられます。
- **子育て世代への着目:** 子育て世代のニーズに対応した施設やサービスを充実させることは、若い世代の定住促進や中心市街地への誘客に繋がり、将来的なまちの活性化に不可欠です。
- **イベントによる継続的な賑わい創出:** 定期的なイベントやワークショップの開催により、市民が継続的に中心市街地を訪れる動機付けをすることが重要です。市民参加型のイベントを企画することも有効です。
- **民間活力の活用:** 施設の運営や商業テナントの誘致において、民間事業者のノウハウや活力を積極的に導入することで、より魅力的な施設運営が可能となります。

Mallmall は、都城市が「市民の居場所」として、そして「まちのエンジン」として、中心市街地の活性化を牽引している好事例と言えます。今回の視察が、加須市の中心市街地活性化に向けた具体的な施策立案の一助となれば幸いです。

令和 7 年 7 月 22 日

加須市議会議員

栗原智之